

徳島大学全学FD推進プログラムの活動報告

香川順子、田中さやか、吉田博
徳島大学大学開放実践センター

1. はじめに

2008年度よりFD (Faculty Development) の義務化がなされたが、教員の教育力を向上するためのFDの実質化や組織化は十分進んでいないことが「学士課程教育の構築に向けて（平成20年12月24日中教審答申）」に述べられている（文部科学省、2008）。

具体的には、現在のFDの課題として、①個々の教員のニーズに応じた実践的、日常的FDの実施、②教員相互の授業改善、評価など、相互の評価文化を根付かせること、③教育面での業績評価の仕組みづくり、④FDの組織体制を整える、⑤分野別FDの基盤づくりなどが述べられている（文部科学省2008におけるFDの課題を筆者が要約）。

以上にあげた諸課題について、徳島大学では比較的早期から取り組み、FD活動を推進してきた。組織的、体系的な全学FDの推進を目指し、2002年度より本格的な実施を始めてから、第1期、第2期を経て、2009年度で第3期2年目となった。

第1期計画（2002年度～2004年度）では、FDプログラムの立ち上げを行い、第2期（2005年度～2007年度）では、FDに対して理解を示す教員が徐々に増え、FDの浸透が見られた。第3期（2008年度～2010年度）には、教員のFDに対する肯定的な意識変化が見られ、FDプログラムを実際に機能させていく実質化の段階を迎えている（香川ほか、2008）。

2. 徳島大学における全学FDの現状

初めにあげた諸課題を基に、徳島大学における全学FDの現状を説明する。①、②については、主に「授業コンサルテーション・授業研究会」において、課題は残るものので既に実施しており、より個別的・日常的なFDの実施が課題となっている。③については、業績評価の項目として、授業の実施、FDの企画・実施に関する項目がある。また、教育カンファレンスでの発表や大学教育研究ジャーナルへの投稿など、教育面の成果発表の場が設けられている。④、⑤について

は、FD専門委員会、各学部（部局）FD委員会を設置し、FD実施組織として体制が整ったが、実質的連携と学内FDリーダーの育成が課題となっている。

徳島大学の全学FD活動は、全国的に見て進んだ取り組みとして位置づけられるが、より実質的な活動のためには、先の諸課題を克服しつつ、全学的な認知を得る必要がある。そこで本発表では、徳島大学におけるFD活動について、全学的な理解と共通認識を促進するとともに、学内・学外のFDネットワークの強化・拡大のため、本学のFD活動やその意義について報告することを目的とする。

3. 徳島大学における全学FDの活動

徳島大学における全学FDは、大学開放実践センター高等教育支援研究開発部門が中心となり、次の6つのプログラムを進めている¹⁾。（プログラムの1、2、4、6については、SPOD²⁾提供プログラムとして学外にも開放している。）

(1) FDファシリテーター養成研修

学内のFD担当者（主に各部局のFD委員）を対象として、毎年1泊2日の合宿研修を行っている。内容は、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて行うものである。講師は学外講師（愛媛大学の佐藤浩章先生）を招いて実施している。

(2) 教育力開発基礎プログラム

新任教員および希望者を対象として、基礎的な教授法を身につけるための研修を実施している。この研修では、シラバス作成や授業計画など教育に関する基礎知識の理解と、模擬授業の実施など実践的な教育力向上のための活動を、レクチャーやワークショップを通じて行う。実践的な教育力を身につけ、日常的な教育改善へとつなげていく研修として位置づけ、参加者同士が交流しながら、様々な問題解決を行う場として設定している。テキストとして、『FD推進ハンドブック³⁾』を利用している。

(3) 授業コンサルテーション・授業研究会

初任者教員、希望する教員を対象とし、教育改善のためのコンサルティングを行う。授業参観、授業研究会を行い、様々な部局からの参加者を交えて授業改善について検討する。このプログラムは、教員の実情に沿った具体的で日常的なFDを目指すものである。また授業研究会を実施することで、他教員との共同研修の機会の場合でもある。授業コンサルテーションの流れは、①希望する教員の授業参観、VTR撮影、学生アンケートの実施、②授業記録作成・学生アンケートの整理、③授業研究会（発表・授業VTR視聴・議論）、④授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化を行う、という流れとなっている。

(4) FDとくどくセミナー

大学教育の課題解決と授業実施のスキルアップを目指して、随時FDとくどくセミナーを実施している。これまでの例として、「学生の声から始めた授業改善」、「授業の『見せ方』—視聴覚資料の効果的な活用法」、「歯学部におけるPBL～チュートリアル授業の概要」、「授業の評価をどう行えばいいのか?」、「聴衆応答システム（クリッカー）を使ってみよう」といった多彩なテーマのもと、レクチャーやワークショップを中心にしている。

(5) FD・SDラウンドテーブル

各テーマに関心がある全教職員・大学院生TAを対象とし、授業改善に関する情報共有、ディスカッションの機会を設けることを目的とし、ラウンドテーブルを行っている。大学内外からの講師による話題提供がなされ、徳島大学教員が直面しているFDに関わる諸問題について、気軽に話し合える日常的なFD活動として実施している。

(6) 大学教育カンファレンスin徳島

大学開放実践センターにて、毎年カンファレンスが開催されている。前年は2009年1月21日に開催され、各学部からの発表があった。発表数は、口頭発表19件、ポスター8件の計27件であった。特別講演として、毎年学外から講師を招いている。

これらのプログラムの他、2004年より『大学教育研究ジャーナル』³⁾の発行を毎年行っている。主に学内教員が大学教育やFD活動に関する研究報告を行っており、学外からの投稿もいくつか見られる。

4. 今後の課題

プログラムの面においては、先にあげた諸課題を解決しつつ、より実質的なFDを目指し、プログラムの体系をより明確に構築する必要がある。さらに、各種FD活動について効果検証を行う中で、その手法を確立させ、よりよい支援へとつなげてくようなサイクルを確立しなければならない。

また、第3期という新たな段階に突入し、大学開放実践センターは、学内外のネットワークを強化・拡大する重要な役割を持ち始めている。今後は、FD関連の人材育成の支援や、学内外のFDリーダーを、必要に応じてコーディネートしていく役割が重要になってくるだろう。

FD実施組織としての新たな役割を明確にするとともに、より実質的な支援、研究を推進していくことが、今後の重要な課題となるだろう。

注

- 1) 徳島大学FD活動の詳細については、<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/> (2010. 1. 15) を参照のこと。
- 2) 徳島大学は、学外の高等教育機関との連携事業として、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)にコア校として参加している。教育力向上を目指し、学外とも連携しながら様々な活動を展開している。活動の詳細は<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/> (2010. 1. 15) を参照のこと。
- 3) 『FD推進ハンドブック』、『大学教育研究ジャーナル』はサイトよりダウンロード可能である。(ハンドブックは学内限定)<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/category/0000020.html> (2010. 1. 15)

参考文献

1. 香川順子・川野卓二・宮田政徳・神藤貴昭・曾田紘二・奈良理恵 2008 「徳島大学におけるFD実施組織としての役割と機能:大学開放実践センターFD活動の事例分析より」京都大学高等教育研究 14, 71-81.
2. 文部科学省 2008 『学士課程教育の構築に向けて(答申)』(2008. 12. 24) .